

3級認定講習会 競技規則テスト例題② (2020/2021)

1. 第12条「ファウルと不正行為」について、()の中に適語を入れなさい。

●直接フリーキック

競技者が次の反則のいずれかを相手競技者に対して不用意に、無謀に、または、過剰な力で犯したと主審が判断した場合、直接フリーキックが与えられる：

- ・ (1)。
- ・ (2)。
- ・ (3)。
- ・ (4)。
- ・ (5)。
- ・ (6)。
- ・ (7)。

競技者が次の反則のいずれかを犯した場合、直接フリーキックが与えられる：

- ・ (8) (ゴールキーパーが自分のペナルティーエリア内にあるボールを扱う場合を除く)。
- ・ (9)。
- ・ (10)。
- ・ (11)。
- ・ (12)。

ボールを手または腕で扱う

ハンドの反則を判定するにあたり、腕の上限は (13) までのところとする。

競技者が次のことを行った場合、反則となる。

- ・ 手や腕をボールの方向に動かす場合を含め、手や腕を用いて (14) ボールに触れる。
- ・ ゴールキーパーを含め、(15) であっても、手や腕から相手チームのゴールに直接 (16) する。
- ・ (15) であっても、ボールが自分や味方競技者の手や腕に触れた直後に相手競技者のゴールに(16)する。
(17)。

次のように手や腕でボールに触れたとき

- ・ 手や腕を用いて競技者の体を (18) に大きくした。
- ・ 競技者の手や腕が (19) にある(競技者が意図的にボールをプレーしたのちボールがその競技者の手や腕に触れた場合を除く)。

これらの反則の範囲は、ボールが近くにいる別の競技者の (20) または (21) (足を含む)から競技者の (21) に直接接触した場合でも適用される。

2. ペナルティーキックの結果の要約表を完成させなさい。

	ゴール	ノーゴール
攻撃側競技者による侵入	(22)	(23)
守備側競技者による侵入	(24)	(25)
守備側競技者および攻撃側競技者による侵入	(26)	(27)
ゴールキーパーによる反則	(28)	セーブされない: (29) (キッカーが影響を受けていない限り)
		セーブされる: (30)
ゴールキーパーによる反則	(31)	(32)
ゴールキーパーおよびキッカーが同時に反則	(33)	(34)
ボールが後方にけられた	(35)	(36)
不正なフェイント	(37)	(38)
特定されていないキッカー	(39)	(40)